Form J (F→O)　　提出日 Submission Date: 2011 / 1 / 7

博士学位論文審査報告書
Summary of Doctoral Thesis and Report of Examination

研究科長　殿
下記のとおり、審査結果を報告します。

To the Dean:
We report the result of Examination for the Doctoral Thesis below.

学籍番号 Student I.D. No.: 4008 S 0086 -

学生氏名 Name: Jeet Bahadur Sapkota

和文題名 Title in Japanese: 生活の質に対するグローバリゼーションの影響

英文題名 Title in English: Impacts of Globalization on Quality of Life

記

1. 口述試験参加教員　Faculty Members Involved in Oral Examination

①審査委員会主査　Chief Referee of the Screening Committee

氏名 Name: 浦田秀次郎　印

所属 Affiliated Institution: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

資格 Status: 教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

Ph.D. スタンフォード大学

②副査（審査委員 1）Deputy Advisor (Member of Screening Committee 1)

氏名 Name: 松岡俊二　印

所属 Affiliated Institution: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

資格 Status: 教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

博士　広島大学

③審査委員 2　Member of Screening Committee 2

氏名 Name: 不破信彦　印

所属 Affiliated Institution: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

資格 Status: 准教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

Ph.D カリフォルニア大学バークレー校

④審査委員 3　Member of Screening Committee 3

氏名 Name: 栗田匡相　印

所属 Affiliated Institution: 関西学院大学経済学部

資格 Status: 助教

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

博士　一橋大学

2. 開催日時 Date / Time: (Y)2010 /(M) 11 /(D) 25 (Time) 18:00 Period 時限 ～ 20:00 Period 時限

[時限 / Period] 1st: 9:00-10:30, 2nd: 10:40-12:10, 3rd: 13:00-14:30, 4th: 14:45-16:15, 5th: 16:30-18:00, 6th: 18:15-19:45, 7th: 20:00-21:30

3. 会場 Venue: 19 号館　309

4. 合否判定 Result: ○合/Passed・否/Failed（該当する方に○ Circle as appropriate）

5. 添付資料 Attached document(s)

4 枚 pages (和文4,000字程度、和文に限る。ただし、論文題目のみは、和文・英文を併記すること)
(Approximately 4,000 characters in Japanese. Only Japanese is permitted. The Doctoral Thesis title, however, must be written in both Japanese and English.)

博士学位申請論文の審査報告

申請者　Jeet Bahadur Sapkota

論文名：Impacts of Globalization on Quality of Life (生活の質に対するグローバリゼーションの影響)

Ⅰ　本論文の特徴と構成

近年、経済活動における世界化（グローバリゼーション）が急速に進展している。このことは国際経済活動である国際貿易や国際投資が、国内経済活動を反映する国内総生産（GDP）よりも急速に拡大していることで捉えることができる。例えば、世界の貿易と GDP の比率は 1960 年には 24%であったが、2008 年には 58%に上昇している。また、フローで測った世界の直接投資と GDP の比率は 1970 年には 0.54%であったが、2007 年には 4.28%まで拡大している。経済活動の急速なグローバリゼーションは、世界レベルでの規制緩和や民営化といった世界各国における政策の変化、情報分野や輸送分野における技術革新による情報や輸送コストの低下などによって推進された。

グローバリゼーションが急速に進展する状況において、多くの研究者はグローバリゼーションの世界各国の経済への影響について関心を持つようになった。理論的には、グローバリゼーションの進展は、労働や資本などの生産要素の効率的使用を可能にすることから、経済成長を推進することが予想される。しかし、現実にはグローバリゼーションによって与えられたビジネス・就業・経済成長の機会を巧みに捉えられる企業・労働者・国家などはメリットを享受できるのに対して、そのような機会を活用できない企業・労働者・国家はメリットを享受できないだけではなく、損失を余儀なくされる場合もある。実際、グローバリゼーションの進展が著しかった期間において、世界諸国間および各国国内での所得格差が拡大したことを示す研究もある。

これらの状況を踏まえて、本論文ではグローバリゼーションの発展途上国における生活の質への影響を分析する。具体的には、以下の３つの問いに対して分析を行う。①グローバリゼーションは発展途上国における生活の質にどのような影響を及ぼしたのか？②アジア太平洋地域においてグローバリゼーションは各国間の生活の質の格差を拡大したのか、あるいは縮小したのか？③発展途上諸国におけるグローバリゼーションに対する政策的対応はどのようなものであったのか？本論文では、以上の３つの問いに対して、数量分析を行っているが、分析では先行研究のサーベイを丹念に行い、データおよび採用された数量分析手法などについて詳細な説明を加え、分析結果を様々な観点から解釈している。

本論文の特徴としては、

① グローバリゼーションを先行研究のように経済面だけで捉えるのではなく、社会および政治といった観点からも捉えていること、
② グローバリゼーションの影響について先行研究で分析の対象となった所得などの数量的な指標だけではなく、人間開発指標、ジェンダー開発指標、貧困といった生活の質を反映する指標も考慮したこと、
③ グローバリゼーションの発展途上国への影響を考察するだけではなく、発展途上国の開発戦略におけるグローバリゼーションの位置付けについても検討したこと、

などが挙げられる。

本論文は、全６章で構成されている。

第 1 章は論文の研究課題、仮説、研究手法などについての説明を含む導入部分となっている。

第 2 章では、グローバリゼーションと生活の質について関連する先行研究をレビューし、先行研究によって解明されていない問題・課題などを抽出すると共に、それらの課題に対する本論文の研究による回答提示可能性などについて議論している。具体的には、本論文の重要語句であるグローバリゼーションと生活の質の定義を議論する。グローバリゼーションの定義では、先行研究で分析の対象となった経済だけではなく、社会および政治も含めた形で定義し、各々についてグローバリゼーション指標を構築し、それらを統合して総合グローバリゼーション指標を作成する。生活の質については人間開発指数を分析に用いる。人間開発指数は、健康、教育、一人当たり GDP などを構成要素としている。また、本章ではグローバリゼーションによる生活の質への影響を及ぼすチャンネルについても考察を加えている。

第 3 章では、グローバリゼーションと発展途上国における生活の質の推移を検討し、グローバリゼーションの生活の質に対する影響について統計的手法を用いて数量的に分析している。生活の質に関しては、特に、人間開発、ジェンダー開発、貧困に注目している。グローバリゼーションについては、第 2 章で定義されたグローバリゼーション指標だけではなく、グローバリゼーションを捉えるにあたって、より一般的に使われている貿易、直接投資、ICT（通信サービスへのアクセス）といった変数も用いている。

第 4 章では、グローバリゼーションによってアジア諸国間で生活の質に関して格差が縮小しているのか、あるいは拡散しているのか、という問いに対して分析を行っている。本分析ではデータの制約から生活の質に関しては、人間開発指数、出生時の平均余命、成人の識字率、就学率、一人当たり GDP を指標として用いている。他方、グローバリゼーションに関する指標としては、貿易、直接投資、ICT および海外からの送金を取り上げている。

第 5 章では、グローバリゼーションの内容について注目し、それらがアジア太平洋諸国における経済発展戦略にどの程度取り入れられているのかという点について分析を行っている。具体的には、世界銀行による指導で発展途上国自身によって準備された貧困削減戦略文書（PRSP）の内容を参考にして、アジア太平洋諸国の発展計画において貿易、直接投資、国際観光、外国援助、人の国際移動などグローバリゼーションに深く関係するテーマがどの程度取り上げられているかを検討している。ここでは東アジア諸国と南アジア諸国でのグローバリゼーションへの対応の比較も行なっている。

第 6 章は終章であり、各章の要約と結論が提示されている。

Ⅱ　本論文の研究成果

本論文の主要な研究成果は第 3 章、第 4 章、第 5 章に含まれている。

第 3 章のグローバリゼーションと生活の質についての分析では、はじめにグローバリゼーション指標を用いてグローバリゼーションが経済、政治、社会のすべての側面で 1970 年から 2007 年にかけて進展したことが示された。地域的にみると、発展途上地域では東アジアにおいて近年グローバリゼーションが急速に進展していることが確認された。生活の質については、人間開発指標で測った結果、1975 年から 2005 年にかけて、すべての発展途上地域で改善していることが明らかになった。同指標については、発展途上地域間で格差があり、高い地域から低い地域に並べると中南米、東アジア、南アジア、サブサハラ・アフリカという順番になった。東アジアは中南米の次に位置するが、人間開発指標の上昇率が高く、同期間で中南米との格差は大きく縮小した。グローバリゼーションの生活の質に対する影響についての数量分析では、126 の発展途上国に関する 1997 年から 2005 年にかけてのデータを用いて、固定効果パネル推計を行った結果、グローバリゼーションは人間開発およびジェンダー開発を促進すると共に貧困を削減する効果を持つことを明らかにしている。

第 4 章では、グローバリゼーションによってアジア諸国間で生活の質に関して格差が縮

小しているのか、あるいは拡散しているのか、という問いに対して分析を行っている。アジアに位置する 19 カ国を対象として 1975 年から 2005 年までの期間について 5 年ごとのデータを用いてパネルデータを構築し、生活の質を国連の人間開発指数で捉えてパネルデータ分析を行った結果、多くの国々で格差が縮小しており、その一つの要因としてグローバリゼーションが影響していることが明らかにされた。グローバリゼーションの生活の質への影響については、生活の質の内容によってその影響が異なるという興味深い結果が示されている。具体的には、所得に関するアジア諸国間の格差はグローバリゼーションによって拡散しているが、健康や教育に関しては格差が大きく縮小している。指標によって異なる影響を総合すると、グローバリゼーションはアジア諸国において生活の質の差を縮小させる効果を持ったということになる。

第 5 章では、グローバリゼーションの内容について注目し、それらがアジア太平洋諸国における経済発展戦略にどの程度取り入れられているのかという点について分析を行っている。分析にあたっては、グローバリゼーションの内容として国際貿易、直接投資、経済援助、観光収入、海外からの送金を考察した。分析結果からは、分析対象国の経済発展戦略に関しては、国によってバラツキはあるが、グローバリゼーションの要素はある程度取り入れられていることが分かった。東アジア諸国と南アジア諸国の発展戦略を比較すると、東アジア諸国の発展戦略において、グローバリゼーションがより重要な項目として扱われていることが判明した。グローバリゼーションの内容については、低所得発展途上国において外貨獲得のために重要な役割を担っている海外からの送金について発展戦略ではほとんど触れられていないことが示された。

結論部分では、グローバリゼーションが生活の質の向上に貢献するという分析結果を踏まえて、発展途上諸国は経済を開放し、世界各国との経済的、政治的、社会的交流を深めるべきであるという政策を提言している。将来の研究課題としては、どのような状況においてグローバリゼーションによる生活の質向上への貢献が大きくなるのかを明らかにすることである、と述べている。

Ⅲ　本論文の評価

2010 年 11 月 25 日に公開の口述試験を実施し、4 審査委員は次のような評価を下した。本研究は近年の世界経済において最も特徴的な現象であるグローバリゼーションと最も関心の高いテーマの一つである経済発展・成長の質（本論文では生活の質と表現されている）について近年における傾向を様々な観点から検討し、さらに発展途上諸国を対象としてグローバリゼーションの生活の質への影響を分析しており、分析結果は研究分野での貢献だけではなく、政策策定においても有益な示唆を与える。グローバリゼーションの量的な視点から捉えた経済成長への影響についての研究は少なくないが、グローバリゼーションの経済成長・発展の質的な側面に焦点を当てた分析は極めて少ない現状を考慮するならば、本論文における筆者の着眼点は高く評価される。この着眼点は筆者がネパール出身であり、経済発展の状況を実感してきたことと関係があると思われる。

本論文の研究面での貢献はグローバリゼーションと生活の質を包括的に捉えたことと、データを用いてそれらの近年における傾向を把握し、グローバリゼーションの生活の質への影響について統計的手法を用いて厳密に分析したことである。グローバリゼーションの捉え方としては、これまでの分析で行われているように経済面だけではなく、社会および政治面も含めている。実際、経済面だけではなく、社会および政治面でのグローバリゼーションも進展しているだけではなく、それらの面でのグローバリゼーションの進展も経済面のグローバリゼーションの進展と同様に生活の質を改善する影響を持つことが示されたことは興味深い（第 3 章）。但し、経済面でのグローバリゼーションが生活の質の向上に貢献する理由については説得的に説明されているが、政治面や社会面でのグローバリゼーションがどのような理由で生活の質の向上に寄与するのかという理由についての説明は不十

分であり、さらなる検討が必要であるという指摘が多くの審査委員から提示された。また、経済面、政治面、社会面でのグローバリゼーションを統合する形で求められた総合グローバリゼーションの指標について、統合にあたって用いられた各々のグローバリゼーションに付けられた比重（ウェイト）の正当性に対する問題も指摘された。

本論文でのもう一つの貢献は、アジア太平洋諸国においてグローバリゼーションが諸国間の生活の質の格差の縮小に寄与したことを明らかにしたことである(第 4 章)。この点は、前述したグローバリゼーションによる生活の質の改善効果と関連するのであるが、生活の質の格差縮小効果について統計的手法を用いて厳密に立証したことが評価される。また、アジア太平洋諸国を分析対象とした、この分析結果は、アジア太平洋諸国に属する東アジア諸国において、南アジア諸国と比べて、グローバリゼーションを発展戦略の中に積極的に取り入れているという第 5 章の分析結果とも整合的である点が興味深い。但し、上述したグローバリゼーションの生活の質を向上させる効果は、生活の質を出生時における平均余命、成人識字率、就学率などの質的な指標については認められたが、一人当たり GDP といった量的な指標については認められなかった。質的な指標と量的な指標との、このような傾向の違いは、質的な指標においては上限があるのに対して、量的な指標についての上限はないという指標の性格の違いに拠るところが大きいと思われるが、その点についての分析がなされていないという指摘があった。

上述したような問題点はあるが、現在、世界経済が抱える重要な問題について、先行研究の丹念なレビューを通じて仮説を構築し、それらの仮説の可否について統計的手法を厳格に適用することで検定し、分析結果を様々な角度から吟味したことは高く評価される。以上の評価に基づき、審査委員は全員一致で本研究の学術上の貢献は博士（学術）学位論文に値すると判定した。

2011 年 1 月 7 日

審査委員会

主査　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授
浦田秀次郎　Ph.D.　スタンフォード大学

副査　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授　松岡俊二　博士　広島大学

審査委員　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・准教授
不破信彦.　Ph.D　カリフォルニア大学バークレー校

審査委員　関西学院大学経済学部・助教　栗田匡相　博士　一橋大学